

報告会では、各分科会のコーディネーターがそれぞれ議論された内容を報告し、豊橋市長がサミット宣言を行った。また、飯田市長が次回開催地域を代表してあいさつをした。

「道」分科会 豊橋市長 佐原光一

それでは私のほうから、「道」分科会の内容を報告させていただきます。

今回は、新東名高速道路、三遠南信自動車道路など、三遠南信地域連携ビジョンに掲げました交通基盤の整備が着々と進みつつある現状を踏まえまして、今後、さらなる展開を図ることを目的に「県境連携を促進する地域基盤整備の状況と展望」というテーマのもとで、議会、経済界、住民団体、行政が実際に交通基盤を使用する立場から、奇譚のない意見を交わすことといたしました。

分科会の参加者からは、新東名高速道路の開通、三遠南信自動車道における浜松いなさ北ICから鳳来峡ICの間の供用開始、飯橋道路1工区の開通、国道23号名豊道路の進捗などの広域交通基盤の整備がもたらす産業、観光、防災、生活など、さまざまな分野での数多くの具体的な方向が報告されました。ちょうど浜松河川国道事務所の天野所長のプレゼンの資料にもありましたように、道路がつながることによっての地域の皆様の笑顔が目目の当たりに浮かぶ、そのような発表がたくさんされた、そういう発言がたくさんあったことが大変大きな印象でございました。

また、浜松三ヶ日・豊橋道路、三遠伊勢連絡道路（伊勢湾口道路）などのネットワークをさらに拡大する交通基盤整備の必要性につきましても活発な議論がなされたところでございます。一部がつながるだけでも地域の振興に大きな効果があることが確認されたことで、早期全線開通への地域の期待はますます高まりを見せており、これまで以上に地域が一体となっ

て、広域交通基盤の整備促進に取り組んでいかなければならないという認識を共有いたしました。

これらの意見を、大きく三つのポイントにまとめて整理をさせていただきます。

まず1点目といたしましては、三遠南信自動車の整備により東名高速道路、新東名高速道路、浜松三ヶ日・豊橋道路、三遠伊勢連絡道路（伊勢湾口道路）さらには将来的にはリニア中央新幹線が連絡することで広範なネットワークが形成され、そのつながりがさまざまな交流を生み出すこと。

2点目といたしましては、三遠南信地域の産業のさらなる活性化に向け、地域と地域を結び、海外へとつなげるためにも三河港、御前崎港といった港湾へのアクセス向上が必要なこと。

3点目といたしましては、東日本大震災で高規格幹線道路が大きな効果を発揮しましたように、医療機関への搬送路や災害時における緊急輸送路となる命をつなぐ道として、ミッシングリンクとなっている三遠南信自動車道路の整備が大切なこと、こうした地域からの意見を実現するためには、各期成同盟会等による要望活動やキャンペーンを今後も継続的に行うとともに、県境を越え、これまで以上に地域が一体となって広域交通基盤の整備促進に取り組む必要があるということを確認いたしました。

以上をもちまして、「道」分科会の報告とさせていただきます。参加されました皆様方、本当に真摯な声を聞かせていただきまして、ありがとうございました。

「技」分科会

㈸サイエンス・クリエイト 白坂常務取締役

それでは、「技」分科会からの報告です。

分科会は、行政から2名、経済界から8名、大学から1名、そして住民団体2名、報告者2名、合計15名で行われました。

今回のテーマは、「地域産業の持続的発展を目指した新産業創造と人材の育成」でございます。これに関する議論の内容を報告させていただきます。

最初に、豊橋市の瀧川産業部長から、三遠南信発イノベーション創出を目指した産学官・地域間連携による取り組みについてご報告をいただき、また、SENA事務局の金原事務局長より、三遠南信地域での社会雇用創造事業についての取り組みにあわせて報告をいただきました。その後、新産業創造への取り組み、あるいは既存産業へ活力を与える取り組みについて、各地域での動きについて報告、意見交換を実施致しました。次に今回のメインテーマであります「地域産業の持続的発展を支える新産業創造と人材の育成」の「人材育成」につきまして意見交換を行い、最後にこういった課題解決に向けて、大学など教育機関と連携して取り組みたいこと、教育研究機関に期待することについて議論を深めました。

その中で産学官連携推進協議会の取り組み、産業界と大学のミスマッチを解消するために、大学に相談窓口を設置する等のご提案、三遠南信地域全体で求める人材を明確にして、産学官が協働して地域全体で取り組む必要があり、そのためにSENAで産学官での議論の場を設ける必要があるのではないかという報告がありました。

最後に、大学側からのご意見として愛知大学佐藤学長より、教育面での産学官連携をさらに深めて、関係者間で議論の場として円卓会議の開催が必要であろうとの報告がなされました。

これらの議論を取りまとめますと、大きく以下の3点に集約されると思います。

1番、各構成員の取り組みとして、国内外から三遠南信地域に人、物、金が集まるような魅力のある新産業及び環境の創出、蓄積を図るこ

と。

2番、これを、さらに持続的に発展拡大するために必要な人材を育成する必要があり、そのために県境連携、大学、行政、企業、市民団体の連携という点から仕組みづくりを検討する必要があること。

3番、これら環境を創出する取り組みの一環として、SENAの事業で産学官金による議論の場として円卓会議を実施していくことでございます。以上で、「技」分科会の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

「風土」分科会

財団法人阿智開発公社 羽場理事長

「風土」分科会のセッションの様子をご報告させていただきます。

今回の取り組みは、ご当地グルメを通じた三遠南信の発展、風土の中で、特にグルメに絞っていかに地域を活性化していくか、ネットワークしていくかということを議論させていただきました。

最初に、基調報告として豊川市の観光協会副会長の笠原様から、大変ユニークな取り組みをご報告いただきました。これがおもしろいのです。「いなり寿司で豊川市をもりあげ隊」というグループの活動ということでございました。こういった町おこしのポイントは、まず市民運動があって、それを例えばNPO等、あるいはさまざまな法律の助け、あるいはそういったところの規制を上手に利用しながら団体化して、そして市民運動と行政との協働によって盛り上げていくことが重要なのではないかというご報告をいただきました。つづめますと、行政力掛ける市民力掛ける地元の企業力が町おこしのポイントであると、こういう基調報告でございました。

その後、各SENAの地域でどのような取り組みがあるのかということの紹介、工夫している点も紹介いただきました。また、今後の方向性等について意見をいただきました。

ゆるキャラグッズ、そういったイメージ商品、イメージキャラクターも非常に大きな力を発揮する。商品だけではなくて、例えばグッズや

キャラクターによる派生效果も大きいのだというご指摘。インターネットを使った情報発信が当たり前であるけれども、それだけではだめで、デジタルも必要だしアナログも必要だと、それからSENAとしてのまとまった戦略が必要であろうというご指摘。ネットワークを活用していくことの大切さ、しかもそれもインターネットだけではなくて、フェイスブックとかツイッターとか、さまざまな今の若者たちが多用しているものにもアプローチしていく必要があるというご指摘などをいただきました。

まとめといたしまして一つ目は、情報発信力をつけていくことが大事であるということでございます。これは、B-1グランプリ等のイベント、それからフェイスブック等の新しい情報戦略等々でございます。それから、従来の丁寧な口コミといったものが必要であろうと、情報戦略でございます。

二つ目です。民間と行政、それから、それ以外のさまざまなセクターとネットワークをつくって強固な情報網をつくっていくこと、これが大事であるということでございます。

三つ目でございます。三遠南信地域の基盤をつくっていくために地域ブランドをつくっていく、そして、それをさまざまな産業に広げていく、そうした中の一つとしてフードの戦略が成り立つのであろうと、こういうことでございます。

以上、「風土」の分科会の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

「山・住」合同分科会

豊橋技術科学大学 大貝教授

それでは、「山・住」分科会の報告をさせていただきます。

今回のテーマは、「中山間地域の生活環境向上に繋がる、人・ものの交流促進」というテーマで、意見交換をさせていただきました。

最初に、大平様より「農家民宿くま遊楽亭」のお話をいただきました。それに続いて、参加者の皆様からいろいろなお意見をお伺いいたしました。大きく議論は、三つに分けて行われました。

まずは最初に、それぞれの団体で取り組まれている事例についてご報告いただきました。それから続いて、この三遠南信地域の魅力、あるいは資源といったものについて改めて、特に中山間地域ですが、確認をするということで、それぞれ意見をいただき、最後にこういった資源、あるいは魅力を生かして、どのように交流の促進に結びつけていくかということで、その方策ということでご意見をいただきました。

一つは、三遠南信自動車道の一部供用開始、新東名が開通した。これによって確実に交流は促進しているということが、それぞれ報告者の方から報告されたということであります。つまり基盤整備が、交流を拒んでいる時間的な制約を確実に取り除いているということが確認できたと思います。

続いて資源、あるいは魅力といった点についてですけれども、資源を生かす、あるいは魅力を高めていくということの大切さを、もう一度改めて再認識したかと思えます。

もう一つ、交流という言葉の意味について、交流という意味は交流人口という、いわゆる観光客、観光で交流人口をいかに増やすかという意味と、もう一つは、この地域の中での人的な交流をいかに高めていくかという、大きく二つの意味があるということ、再認識させられました。交流人口を増やすこと自体重要なことですが、そういう中でどうやって中山間地域の生活を維持していくかという、そこに住む人々の交流といいますが、この地域、三遠南信地域の中での交流をいかに大切にしていくかということ、つまり、この地域に住む人たちの誇りを生むような交流が大切なのではないかということを考えさせられました。

もう1点は、交流という意味で、人を呼び込むという意味で、この交流によって地域の人、ここに住んでいる人は当たり前とされていることが、実は当たり前でないということ、交流から気づかされるという、これは非常に大切な点ではないかなと思いました。

幾つか重要な点が出ました。最後の交流の促進策、あるいはこの交流を生活環境の向上に結びつける、これからの広域連携の体制について

議論し、その中で出てきた意見として、まずは自分たちがこの地域を再認識するということから始まるだろう。余り無理をせず、できることから自然体でやればいいのか。ただし、その思いは持ち続けながらやるのが大切だろうという意見でありました。具体的な方策の一つとして、若い力を生かす、大学連携も、一つのこういう中山間地域の交流を促進する重要な方策ではないかということが意見としてありました。

最後ですが、中山間地域の暮らしを守るという意味では、やはり防災を考えないといけない。近年、特に中山間地域での集中豪雨による土砂災害等、頻発しています。そういう意味でも、広域連携による防災体制を考えるということは重要なことであるということです。

以上のような意見交換を通しまして、最後までめとして、三つの点を確認いたしました。

1点目が、三遠南信自動車道、あるいは新東名といった道路基盤整備が、確実に交流を促進させているということは疑いのない事実であるということ。こういった点を踏まえて中山間地域の生活環境向上のための方策を、今後、検討していく必要がある。ただし基盤整備が、逆に過疎化を促進させるという側面も否めないというご指摘もありました。ここについては、注意を払いながら進めていく必要があると思います。

2点目ですけれども、これは情報発信です。この地域の持つ魅力的な地域資源を、この圏域内外にもっともっと発信していく情報発信の体制を整備する必要があります。

最後、3点目ですが、これは三遠南信県境を越えた防災体制の強化、これについて、この地域の中で相互に連携していくという、この3点について最後に確認させていただきました。

以上で、報告を終わります。どうも、ありがとうございました。

サミット宣言 豊橋市長 佐原光一

第20回三遠南信サミット in 東三河では、「第20回記念サミット 三遠南信の歩みと未来～県境連携の先駆けとしての地域創造～」をテーマとし、「道」、「技」、「風土」、「山・住」の各分科会において基盤整備の進捗に伴う事業展開など、具体的な事業に絞り、現状の課題や今後の展開に必要な取り組みについて議論をしました。私たち三遠南信地域連携ビジョン推進会議「SENA」は、未来に向け、本日のサミットでの議論を踏まえ、次の事項に重点を置き、県境連携の先駆けとしての自負を胸に地域創造に邁進いたします。

1、三遠南信自動車道の一部供用開始に伴い、救急・防災体制の充実、産業・観光活動の活発化など、効果が実感されています。早期全線開通への地域住民の期待は一層高まっており、現道活用区間の整備など、ミッシングリンクの解消が必要であることを確認しました。圏域の一体的な発展のため、三遠南信自動車道の早期全線開通、浜松三ヶ日・豊橋道路の整備、さらにリニア中央新幹線の早期開業、三遠伊勢連絡道路の実現を目指し、三遠南信地域連携ビジョン推進会議を中心とし、地域一体となった提言活動等を進めます。

2、地域の強みである既存産業の高度化と産業基盤を生かした新産業の創出を目指すため、三遠南信地域基本計画や地域イノベーション戦略推進事業、国際競争力強化地域による広域連携、産学官金連携をより一層強化し、オープンイノベーションによる研究開発の促進、海外市場を意識した販路開拓、人材育成を推進します。また、三遠南信地域内の大学連携に産官金との連携も加え、各界の代表者による議論の場を設けるなど、人材育成等について引き続き検討していきます。

3、道の駅エコミュージアムを構成する自然・歴史・文化・産物など、地域資源の保全、発掘、活用事業に取り組む民間団体との連携を図るとともに、三遠南信地域の情報発信力を高め、地域固有の商品、サービスの提供により、三遠南信地域における持続的な観光客誘致を促進します。

4、中山間地域の生活環境の向上及び上・下流定住施策の推進のために必要な人・物の交流、連携を図るとともに、情報発信体制の整備を進めます。また、安全・安心な地域の形成に向け、広域的、また局地的に発生する地震や台風等の災害に対応するため、県境を越える防災体制の強化について相互連携して取り組み、防災力の向上を図ります。

5、三遠南信地域連携ビジョン推進会議の新連携組織については、官民連携組織である現在の組織の体制強化を図るため、大学、住民団体など、他団体との連携強化や平成28年度を目途とした広域連合設置に向けた検討を含め、専門委員会として設置した新連携組織検討委員会において鋭意協議を進めます。

これらの取り組みをここに集うすべての主体が確認し、第20回三遠南信サミット2012 in 東三河のサミット宣言といたします。

平成24年10月2日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議
三遠南信サミット2012 in 東三河

○次回開催地域あいさつ

飯田市長 牧野 光朗

それでは、次回開催地になります南信州地域を代表して、一言ごあいさつを申し上げさせていただきます。

本日は、このように3圏域の多くの皆様方がご参集のもと、三遠南信サミット in 東三河が盛大に開催できましたこと、本当にありがたく、またうれしく思うところがございます。これも佐原市長始め、東三河の皆様方、実行委員の皆様方、本当に周到なご準備をしていただいたたまものと厚く御礼を申し上げる次第でございます。本当にありがとうございました。

さて、基調講演の大西先生のお話にもありましたように、私たちの地域を取り巻く環境は大きく変化をしているわけがございます。特に、東日本大震災以降、まさに私たちのこの時代というものは震災前、震災後という、そうした言われ方を今後していくのではないかと思えるほど、人々にとって大きな価値観の変化をもたらしたのではないかと思うところがございます。とりわけ、昨年の漢字一文字に「絆」という文字が選ばれたという報道もありますように、人と人との結びつき、あるいは人と地域の結びつき、地域と地域との結びつきということに、価値観が置かれるようになってきている、そうした時代がやってきていると改めて思うところがございます。

そうした中で、まさに地域と地域の結びつきという中で、全国的に先駆けた動きをしております三遠南信圏域におきましては、いよいよ三遠南信自動車道の整備が進んできているところであります。これから、浜松三ヶ日・豊橋道路をはじめとしたこの圏域の道路が、さらに促進されようということを今回も確認ができたと思えますし、また15年後に控えておりますリニア中央新幹線の飯田新駅におきましても、来年は、い

よいよルート駅位置等も確定をしていくことが見込まれているところがございます。三遠南信の北の玄関口も確実に見えてくるという状況ではないかと思えます。

こうしたハード面の結びつきというものがあるものになってきますとともに、やはり今日もそれぞれの分科会でお話がありましたように、ソフト面でもしっかりと結びつきを強めていかなければならないということに改めて思ったところがございます。特に、いよいよ目標年次も示されましたが、平成28年度の三遠南信の広域連合設置に向けた検討が本格的に始まるという中で、この地域における私たちのそれぞれの役割というもの、もう一度確認し、そしてまた来年、南信州におきまして、この結びつきをどのような形で具体化していくかということについて、それぞれの思いをすり合わせていく、そうしたことができるようなサミットにしていくことができればと思うところがございます。

終わりになりますが、この三遠南信サミットをお支えいただいておりますすべての皆様方に感謝を申し上げ、私からのあいさつとさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

